

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年05月20日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21510257

 研究課題名（和文） 雲南少数民族の生活経験の変化
 —解放後中国の社会変化をラフ族住民はどう生きたか—

 研究課題名（英文） Changes in Life Experience of Ethnic Minority People in Yunnan
 How Lahu villagers have lived the social changes in PRC

研究代表者

西本 陽一 (NISHIMOTO YOICHI)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：00362012

研究成果の概要（和文）：

1949年の中華人民共和国成立以来、中国社会は何度も大きな社会変化を経てきた。本研究は、このような中国の政策・社会変化の中で、中国西南端の雲南省に居住する少数民族ラフ族の住民生活を受けた影響と変化について、民族語（ラフ語）による聞き取りをもとに、人々の生活経験の再構成を試みた。その結果、少数民族住民は国家規模の社会変化を、イデオロギーや政治面よりも、生存の面から見ていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Since its establishment in 1949, PRC has been undergone drastic social changes. My research project has tried to reconstruct the life experience of the Lahu villagers, an ethnic minority people who live in the peripheral area of PRC, through interviews in Lahu, and estimated the changes and influences of the social changes on the national level. My research has found that the minority villagers have experienced and viewed the social changes from a perspective based less on ideology than on subsistence.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：少数民族、雲南、中国、ラフ族、人類学、生活、社会史、宗教

1. 研究開始当初の背景

1949年の中華人民共和国成立（「解放」）以来、中国社会は何度も大きな社会変化を経てきた。1950年代後半からの集団化と1960年代後半からの文化大革命、1980年代からの改革開放路線となどの政策転換は、住民生活に大きな影響を与えてきた。しかし、国際政治学ではさかんに論じられるこのような中国

現代史は、政治的な変化について多くを教える一方で、その中でひとびとが、生活レベルにおいてどんな経験をしてきたかについては、ほとんど語ってくれない。

私は、2006年と2007年にそれぞれ一週間ほどの予備調査を、雲南省のラフ農民の間で実施した。合計7カ村での聞き取りの結果明らかになったのは、いずれの村も1960年代

前半の集団化の流れの中で、高地から低地への移住を政府から命じられ、焼畑農業を中心とした経済から水田耕作を中心とした経済へと生業転換したことである。文化大革命期には、民族の伝統や宗教の多くの部分は、「封建的」「迷信」などとされ、弾圧を受けた。しかし、1980年代以降の改革開放路線により、自由経済が広がるとともに、民族の文化伝統の見直しもまた始まっている。

過去の生活について雲南少数民族ラフの住民自身が語る語りは、国家規模の政治変化の中で、社会的な周縁にいる非漢族の生活がどう変化してきたかを、住民の視点から捉えなおすために、貴重な材料を提供してくれる。他人の言葉（漢語）でなく、自らの母語で語られるその語りは、文献や非文献によって氾濫する漢族による歴史の語りとは、異なった視点からの住民の生活史を提供してくれる。このような認識に立ち私は、解放後中国の社会変化における少数民族の生活史および自らの過去についての住民の認識を明らかにしようと、本研究課題を構想するに到った。

2. 研究の目的

私の構想する研究全体は、社会の周辺に置かれた人間集団がどのような歴史経験をしてきたか、自らが経験してきた歴史・社会的な苦境の中で、何を感じ、何を希望として抱いているかという問題の解明を目指すものである。換言すれば、不理解やさまざまなステレオタイプと誤解の一方で、その「声」を聞くことの少ない弱者自身の語りに耳をかたむけ、その社会的な経験を彼[女]らの視点にできるだけ近づいて理解しようとする試みである。このような研究の全体構想の中で、本研究では、中国西南地域に居住する少数民族ラフ族が、新中国建国以来の社会変化の中で、どのような生活経験の変化を経てきたかを、住民自身による語りをもとに明らかにしてゆこうとした。

より具体的には、2009年から2012年度までの4年間の期間において、本研究は「雲南少数民族の生活経験の変化」という課題を、次の3つを軸に研究し、明らかにしてゆこうと試みた。

(1) 中国の国家政策および民族政策の検討

(2) 各時代における少数民族ラフの生活の変化の調査研究

(3) ラフ族住民による自らの過去についての語りに反映される周縁民族の社会的経験の検討

3. 研究の方法

本研究は、文献・資料による調査および中国雲南のラフ族村落でのフィールドワークからなり、以下の3点を中心に、解放後中国の社会変化の検討から、少数民族の視点から

の中国史、さらには少数民族の自らの歴史についての認識まで、4年間に少しずつ重心移動しながら、研究を進めた。

(1) 中国の国家政策および民族政策の検討：

主に中国語、日本語、英語の文献と資料をもとに、現地調査と平行して研究を進めた。1. 解放後から1960年ごろまで、2. 1960年ごろから1980年代までの集団化と文革の時代、3. 1980年代に始まる改革開放から現代までという、解放後中国の大きな時代区分に沿って、中国の国家政策と民族政策の歴史変遷をとらえた。予備調査でも明らかになっていった通り、国家的な政策が、ラフ住民の過去の生活変化を語る際の参照枠になっていることが多いため、国家政策の検討は、住民の生活経験の理解にとって不可欠な作業であった。このテーマに関する文献・資料については、既存のものに加えて、フィールドワークに際しても現地で追加収集した。私は中国ラフ族の調査が可能になる以前、1996年から継続してタイのラフ族について研究してきたが、中国の政策の歴史を検討し、タイ国の少数民族政策の歴史との比較することによって、異なった国家的コンテクストにおかれた少数民族の生活経験のあり方の違いを、より深く理解することができた。

(2) 各時代における少数民族ラフの生活の変化の調査研究：

中国人研究者による少数民族研究を参照する一方で、2009年から2012年までの各年に中国雲南省でのフィールドワークを実施し、ラフ族住民に対する聞き取りを通して調査研究した。中国の少数民族研究の中には、少数民族に対する偏った見方をもつものもあるが、実際の村落生活に関する事実を中心とした記述的な報告は、歴史の再構成にとって価値ある資料であった。一方で、フィールドワークでは、できるだけ多くの住民に対して、各時代における生活全般について聞き取り調査を実施した。特に、村落政治におけるリーダーシップ、生業のあり方、低地の漢族マーケットとの経済関係、就労などの移動圏、公的教育、漢語とラフ語の使用状況、婚姻および民族通婚のあり方、伝統文化と宗教の弾圧と復興、観光と文化の客体化などの点を中心に、住民生活とその変化とを、国家政策の各時期それぞれについて再構成した。ここでは、解放後の各時代において具体的に住民がどう生きてきたかを、丹念な聞き取りによって、生活の各面から総合的に捉えるようにつとめた。

(3) ラフ族住民による自らの過去についての語りに反映される周縁民族の社会的経験の検討：

民族語によるラフ住民に対する聞き取りを通して研究した。よりインフォーマルな聞き取りを通して得られる、住民による自らの

歴史についての語りは、少数民族の生活変化の事実を語るだけでなく、過去の各時代の生活に対する語り手の感情や経験を反映している点で重要である。聞き取りでは、事実確認のためのより構造化されたインタビューの他に、雑談的な雰囲気の中で、住民に過去の生活についてできるだけ自由に語ってもらい、それを通して、過去および現在の生活を、彼らがどう経験しどう意識しているかという点から考察した。歴史事実のみならず、歴史に対する住民の生活感情や経験にまで近づいて理解しようとする点に、本研究の特色のひとつがあったと言える。

4. 研究成果

2009～2012 年の間毎年中国雲南省のラフ族村落にてフィールドワークを実施した。特に2009年8月末から9月初めまで雲南のラフ族村落に7日間滞在して、住民の生活変化と歴史認識について滞在調査することができた。その成果は、『中国雲南ラフ族村の生活誌 アユ村の現在と過去』(図書④、以下『生活誌』と呼ぶ)に、本事業の中間報告として纏めた。さらに2012年3～8月には雲南省に滞在して、同省のラフ族村落を広く訪問して、現地調査を行った。

本研究事業全体からみると、2009から2012年度までの4年間の調査研究によって、以下のテーマについて現地調査によるデータが得られた。

- (1) 中国雲南少数民族の生活誌
- (2) 解放後中国の社会変化を少数民族住民はどう生きたか(ラフ族住民の社会史)
- (3) 「漢族の地に行く」ラフ族女性(漢族男性とラフ族女性との遠隔地結婚)
- (4) タイと比較した中国ラフ族の祭祀体系
- (5) ラフ族の「佛」運動と信仰
- (6) タイと中国におけるキリスト教徒少数民族の歴史と状況

このうち(1)(2)については『生活誌』で報告した。本科研報告書(図書①)においては、(5)について、かつてのラフ族の「佛」運動の中心地を訪ね、各地における「佛」信仰の現状について報告した。また『生活誌』でも短く報告したテーマ(3)について、図書①で京都大学の堀江未央(研究協力者)が詳細に報告している。テーマ(4)と(6)についても『生活誌』でも一部報告したが、より本格的な分析と報告は今後つづけて刊行される報告書にゆずる。

本事業では、映像作家・服部一人(研究協力者)の協力のもとで、タイと雲南のラフ族についての映像報告(民族誌映像)を作成した(以下の5. 主な発表論文等〔その他〕)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① Nishimoto, Yoichi. 2012 “Traditional Culture and Local Society: Lahu Food Culture as a Cultural Resource” 『金沢大学文化資源学研究』3: 2-10、査読なし。
- ② Nishimoto, Yoichi. 2009. “Contesting Myths of the Loss of Letters and Ambiguous Identity among the Lahu of Burma-Thai Borderland” Paper read at the Society for East Asian Anthropology & Taiwan Society for Anthropology and Ethnology (SEAA & TSAE), July 2-July 5, 2009, Institute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei. (July 2, 2009)、査読なし。

〔学会発表〕(計4件)

- ① □ 西本陽一 2010年10月16日(土) 「アジア仏教の比較研究—生活宗教としての仏教」金沢大学文化資源学ワークショップ「アジア仏教の比較研究—生活宗教という観点から」於・石川四高記念文化交流館多目的利用室5(石川県)
- ② 西本陽一 2010年7月11日(日) 「実践宗教としての北陸の地域仏教」北陸宗教文化学会第17回学術大会、於・石川県政記念しいのき迎賓館。
- ③ 西本陽一・服部一人 2010年6月13日(日) 「エボというやつ：山地民ラフ族の伝説のポップ歌手」(25分)日本文化人類学会第44回研究大会、於・埼玉県立教大学新座キャンパス。
- ④ Nishimoto, Yoichi 2009年7月2日(木) “Contesting Myths of the Loss of Letters and Ambiguous Identity among the Lahu of Burma-Thai Borderland” Society for East Asian Anthropology & Taiwan Society for Anthropology and Ethnology (SEAA & TSAE), July 2-July 5, 2009, Institute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei. (英語による発表)。

〔図書〕(計6件)

- ① 西本陽一編 2013 『雲南少数民族の生活経験の変化—解放後中国の社会変化をラフ族住民はどう生きたか』金沢：平成21年度～平成24年度科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号21510257研究成果報告書(2013年03月31日、全138ページ)。
- ② 鏡味治也・西本陽一編 2013 『跨境民族と宗教変容—中国とタイの山地民ラフ族の事例』金沢：金沢大学文化資源学研究センター(2013年03月22日、全118ページ)。

- ③ 西本陽一 (編) 2012 『アジア仏教の比較研究—生活宗教という観点から—』金沢：金沢大学国際文化資源学研究センター。(2012年01月31日、全62ページ)
- ④ 西本陽一 2010 『中国雲南ラフ族村の生活誌：アユ村の現在と過去』金沢：金沢大学人間社会研究域。(2010年07月31日、全112ページ)。
- ⑤ 西本陽一 (編) 2010 『中国雲南少数民族の無形文化遺産の世界 中国云南少数民族非物质文化遗产的世界』金沢：金沢大学人間社会研究域、全70頁。
- ⑥ Yoichi Nishimoto and Dale K. Andrews eds. 2009. Report of the International Workshop “Asian Religious and Ritual Fields in Comparison: Cases from Thailand, China, and Japan” Kanazawa, Japan, March 24, 2009. Kanazawa: Faculty of Letters, Kanazawa University.

〔その他〕

映像民族誌 (計11件)

- ① 西本陽一・服部一人 2012 『ソンクラウン 新年を迎える儀式 タイ チェンマイ』ビデオ・ドキュメンタリー、16分。
- ② 西本陽一・服部一人 2012 『シェコヴェ サラテヴェ 砂を盛り あずまやを作る』ビデオ・ドキュメンタリー、16分。
- ③ 西本陽一・服部一人 2012 『シヤマタンヴェ トウモロコシを捧げる』ビデオ・ドキュメンタリー、16分。
- ④ Nishimoto, Yoichi and Kazuto Hattori 2011 “ลาหู่ต้องมีพริก วัฒนธรรมการกินของชาวเขาเผ่าลาหู่ในภาคเหนือของไทย” (Lahu tong mi nam prik: watthanatham kan kin khong chao khao Lahu nai phak nuea khong Thai) ビデオ・ドキュメンタリー、20分。
- ⑤ 西本陽一・服部一人 2011 『アユ村の過去と現在 中国雲南省ラフ族村の暮らし』ビデオ・ドキュメンタリー、18分。
- ⑥ 西本陽一・服部一人 2011 《辣椒是拉祜族的象征 泰国北部山地民拉祜族的饮食文化》ビデオ・ドキュメンタリー、20分。
- ⑦ Nishimoto, Yoichi and Kazuto Hattori 2011 ““For Lahu, it is chili” : the food culture of the Lahu people in northern Thailand” ビデオ・ドキュメンタリー、20分。
- ⑧ 西本陽一・服部一人 2010 『ラフは唐辛子 北タイ山地民ラフ族の食文化』ビデオ・ドキュメンタリー、20分。
- ⑨ Kazuto Hattori and Yoichi Nishimoto 2010 “A Man Named Ai Baw: A pop legend

of the Lahu mountain people” ビデオ・ドキュメンタリー、25分..

- ⑩ Kazuto Hattori and Yoichi Nishimoto 2010 ชายคนชื่อออบ นักร้องเพลงป๊อปในตำนานของชาวล่าหู่ (Chai khon chue Ai Baw: Nakrong pleng pop nai tamnan khong chao Lahu) ビデオ・ドキュメンタリー、25分。
- ⑪ 服部一人・西本陽一 2010 “一个叫 Ai Baw 的家伙—山地居民拉祜族传说中的流行歌手” ビデオ・ドキュメンタリー、25分。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西本 陽一 (NISHIMOTO YOICHI)

金沢大学・人間科学系

研究者番号：00362012